

平成 22 年度環境技術実証 閉鎖性海域WG (第 3 回)におけるご指摘への対応方針

会議名	閉鎖性海域における水環境改善技術 WG 会合 (第 3 回)
日 時	平成 23 年 1 月 28 日 (金) 10:00 ~ 11:30

指摘番号	閉海 WG3 資料 1.2
指 摘 者	西村検討員
指摘内容	石炭灰造粒物の生物の生息環境改善効果に関しては、実証技術として説明ができる部分があるのか。
対応方針	生物生息環境の改善効果については、硫化物イオンの発生抑制や酸化還元電位の低下抑制などとともに、石炭灰造粒物を敷設することにより生物生息環境が三次元的になり、いろいろな生き物がすめる環境が提供されているのではないかと考えています。 詳細について報告書 56 ~ 58 ページに記載しました。

指摘番号	閉海 WG3 資料 1.2
指 摘 者	中村検討員
指摘内容	ゆるゆるのヘドロ層の上に砂を撒く場合には、砂がめり込んでしまって覆砂効果が出てこない。石炭灰造粒物は比重が砂と比べ少し小さいから、空隙のある立体的な空間が形成され、それが長期間維持される効果もあるのか。
対応方針	馬島沖でコア採取をすると、敷設された石炭灰造粒物がそのままの形状で維持されている状況が確認されました。 詳細について報告書 57 ページに記載しました。

指摘番号	閉海 WG3 資料 2 ~ 5
指 摘 者	上嶋検討員、岡田座長
指摘内容	実証試験候補技術ができるだけ実証試験の実施が可能になるよう、別に検討進行中の事業との連携をはかるなど、実証事業の進め方について検討されたい。
対応方針	実証事業全体の課題として運営方法を検討していきます。